

アルゴリズムとデータ構造

第11週目

担当 情報システム部門 徳光政弘
2025年9月24日

今日の内容

- クイックソートの計算量

クイックソートの手続き

アルゴリズム 6.1 クイックソート

入力：サイズ n の配列 $D[0], D[1], \dots, D[n-1]$

```
quicksort(D, left, right) {  
    if (left < right) {  
        pivot_index = partition(D, left, right);  
        quicksort(D, left, pivot_index - 1);  
        quicksort(D, pivot_index + 1, right);  
    }  
}
```

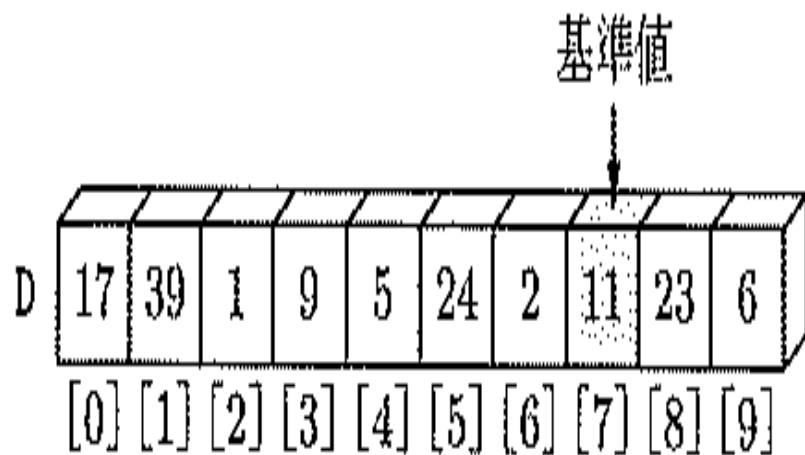
//quicksort(D, 0, n-1) | を実行することにより入力全体のソートが実行される.

分割の手順

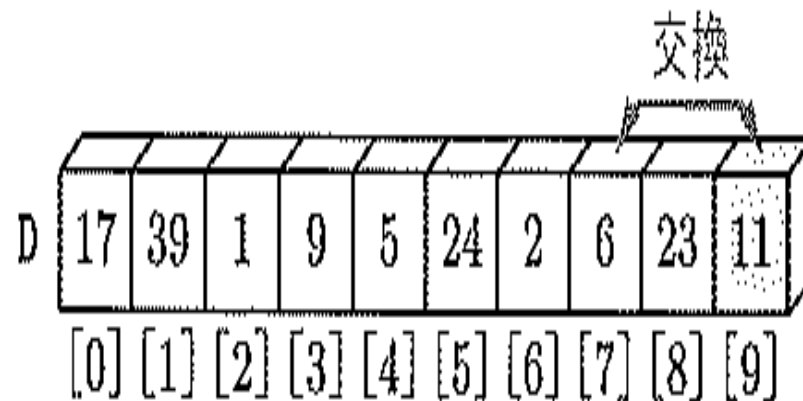
アルゴリズム 6.2 関数 partition

```
partition(D,left,right) {  
    基準値となるデータD[k]を選ぶ;  
    swap(D[k],D[right]);           //基準値を右端のデータと交換  
    i=left; j=right-1;  
    while(i<j) {  
        while (D[i]<D[right]) { i=i+1; }  
        while ((D[j]>=D[right])かつ(j>=i)) { j=j-1; }  
        if (i<j) swap(D[i],D[j]);  
    }  
    swap(D[i],D[right]);           //基準値を2つの集合の間に入れる  
    return i;                      //基準値の位置を出力  
}
```

分割の手順



(a)

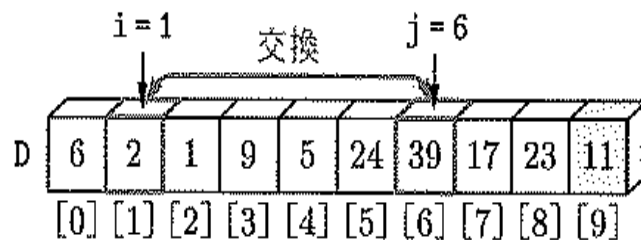


(b)

分割の手順

[0] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9]

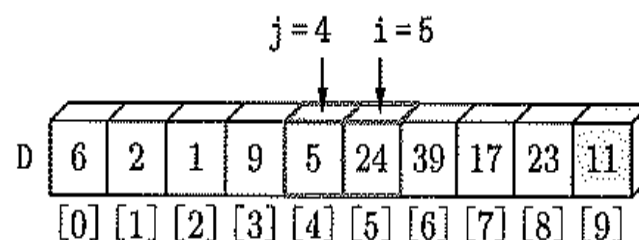
(e)



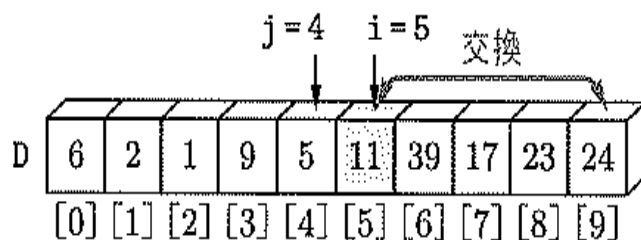
(g)

[0] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9]

(f)



(h)



(i)

考え方

- partitionとquicksortの計算量を合わせて考える

① 関数 partition

② 基準値より左の部分の再帰的なクイックソート

③ 基準値より右の部分の再帰的なクイックソート

$$T(n) = \underbrace{cn}_{(1) \text{ 関数 partition}} + \underbrace{T(n_l)}_{(2) \text{ 左の部分の再帰}} + \underbrace{T(n_r)}_{(3) \text{ 右の部分の再帰}} \quad (n_l + n_r = n - 1)$$

クイックソートの再帰木

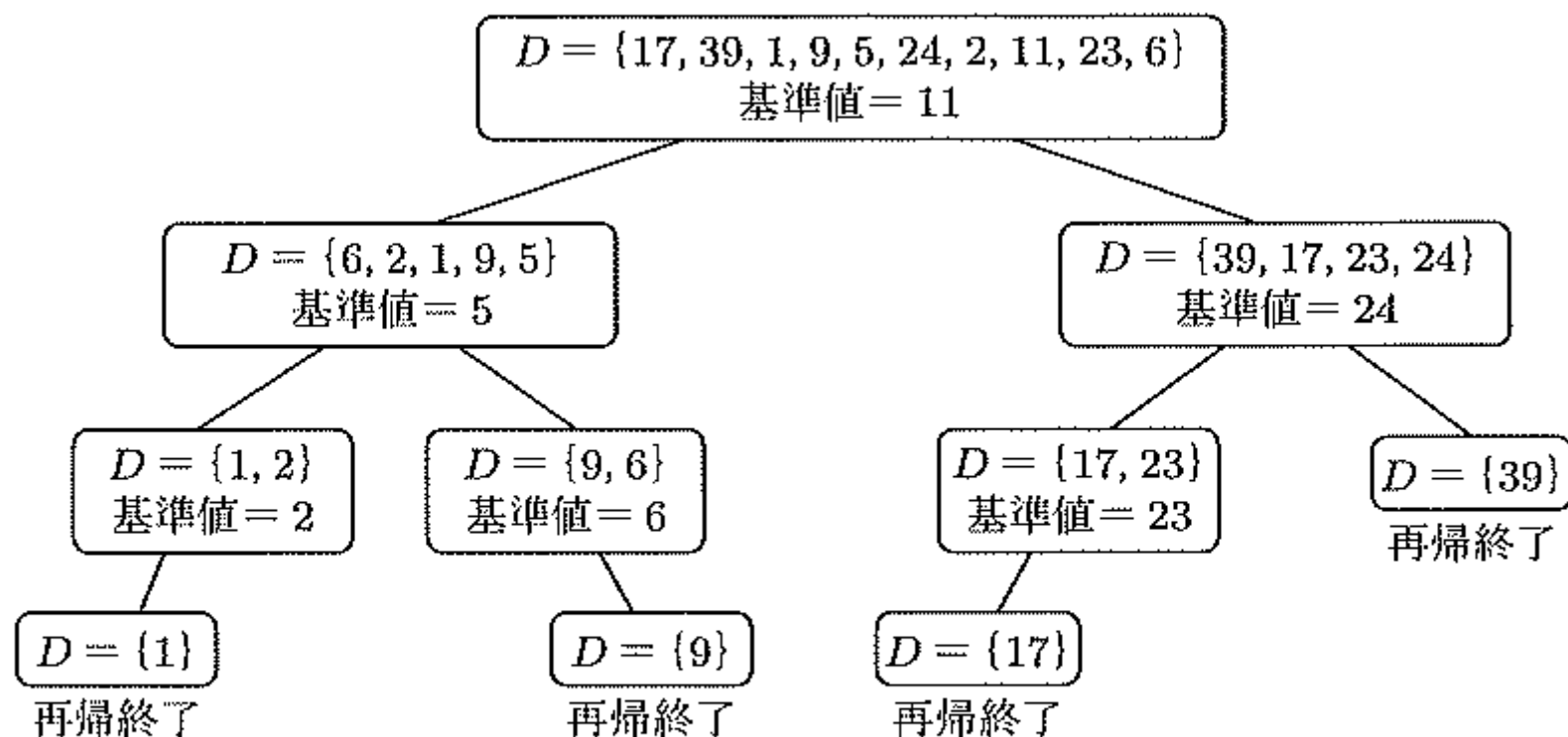


図 6.2 クイックソートの再帰木

考え方

- partitionとquicksortの計算量を合わせて考える

① 関数 partition

② 基準値より左の部分の再帰的なクイックソート

③ 基準値より右の部分の再帰的なクイックソート

$$T(n) = \underbrace{cn}_{(1) \text{ 関数 partition}} + \underbrace{T(n_l)}_{(2) \text{ 左の部分の再帰}} + \underbrace{T(n_r)}_{(3) \text{ 右の部分の再帰}} \quad (n_l + n_r = n - 1)$$

最悪ケースの考え方

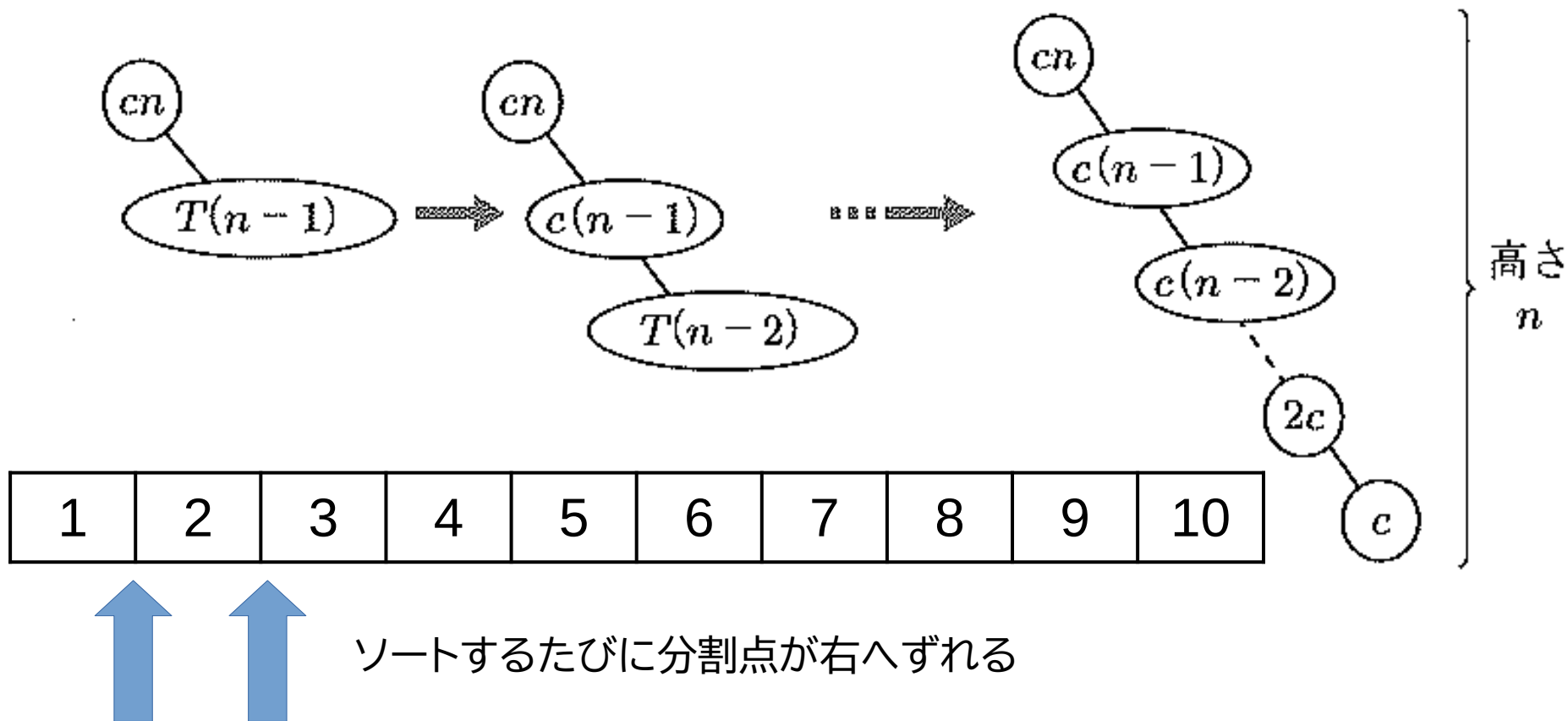
- partitionの分割方法で計算量が左右される
- 昇順状態で一番小さい値を使った極端な分割

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----



分割点

最悪ケースの場合のソート



最悪計算量

$$T(n) = \underbrace{cn}_{\text{関数 partition}} + \underbrace{T(n-1)}_{\text{右の部分の再帰}}$$

右の木を順番に展開・ソートすることで、 cn の数列となる
(右の木が展開されるたびに分割対象の個数が減る)

$$\sum_{i=0}^{n-1} c(n-i) = \sum_{i=1}^n ci = c \frac{n(n+1)}{2} = O(n^2)$$

最良ケース

- 基準値が均等に分割ができる場合

$$T(n) \leq \underbrace{cn}_{\text{関数 partition}} + \underbrace{T\left(\frac{n}{2}\right)}_{\text{左の部分の再帰}} + \underbrace{T\left(\frac{n}{2}\right)}_{\text{右の部分の再帰}}$$

最良ケース

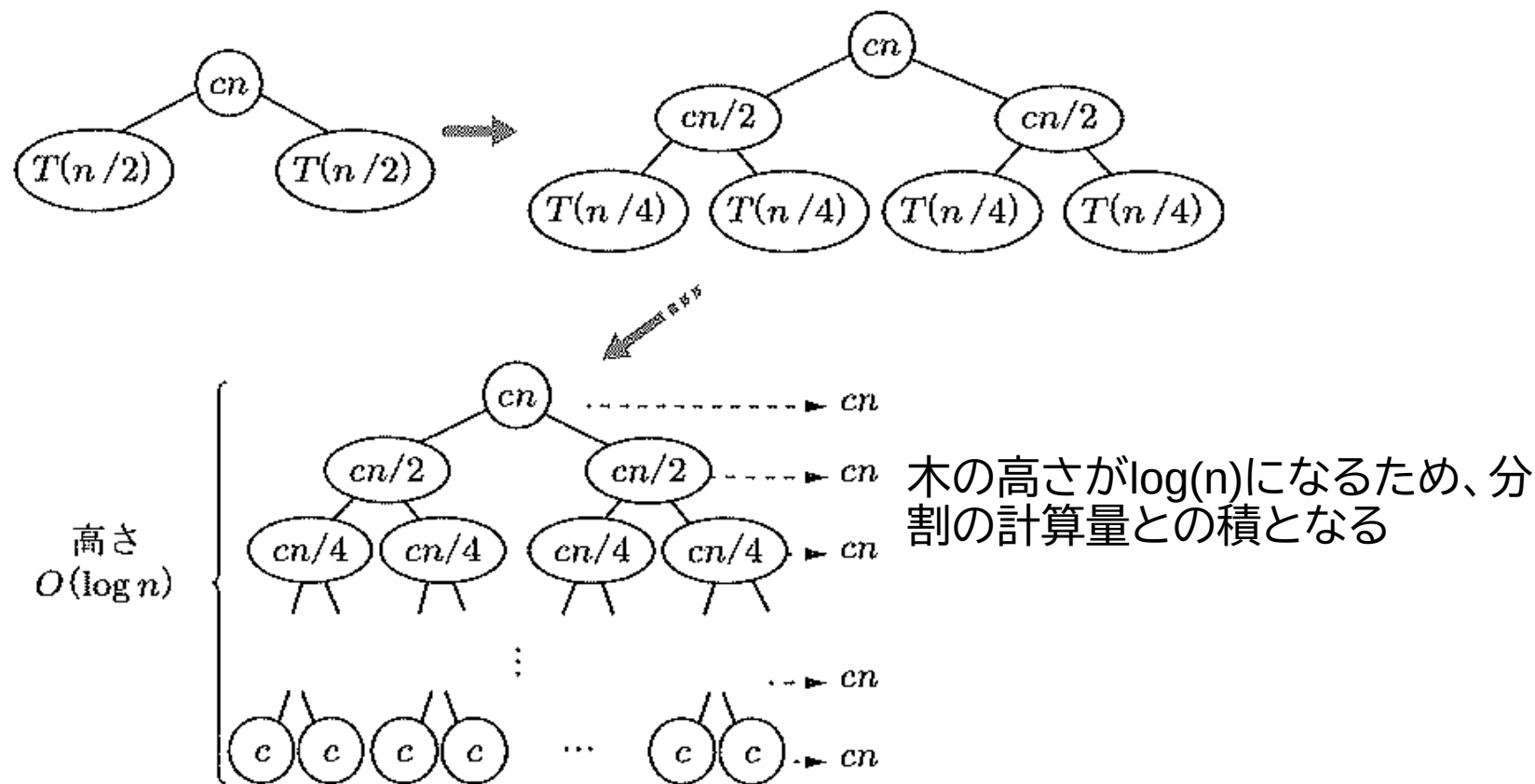


図 6.6 最良時間計算量の場合の再帰木

平均計算量

- ソート対象の値が確率的に均一に分布していることを仮定する
- 直感では最良ケースのソート(前ページ)を参考にする

●性質 6.1

n 個のデータに対するクイックソートの平均時間計算量は, $O(n \log n)$ である.
